

第 16 回 ECE WG 会合議事録（案）

日時：平成 21 年 10 月 1 日（木） 10:00～12:10

場所：日本工学会 事務所（東京都港区芝 5-26-20 建築会館 6 階）

出席者（順不同、敬称略）：

主査 川島 一彦（東京工業大学大学院 教授）
委員 岡田 恵夫（(社)日本技術士会、理事、研修委員会副委員長）
小松 生明（(社)化学工学会人材育成センター 部長、化学工学分野）
田口 裕也（(社)日本機械学会能力開発推進機構長、機械分野）、
中崎 良成（NEC ラーニング 執行役員フェロー、基礎分野）
持田 侑宏（フランステレコム(株) CTO、電気分野）
事務局 柳川 隆之、四戸 靖郷

配布資料：

ECE08-16-1 第 15 回 ECE WG 議事録（案）
ECE08-16-2 CPD 講演会案内
ECE08-16-3 講演会資料：ECE プログラムの概要とその目標（川島主査）
ECE08-16-4 講演会資料：工学会 CPD 活動への期待（永田前委員）
ECE08-16-5 ナノテク ECE プログラムに関する検討経緯
ECE08-16-6 経過報告（持田委員）
ECE08-16-7 つくばナノテク拠点（経済産業省）
ECE08-16-8 ECE WG 委員名簿

議 事：

1. 前回議事録確認

2 月 23 日に開催された第 15 回 WG 会合の議事録が確認された。

川島主査から、本年度の活動について、桑原協議会長の指示に従って今後の進め方の具体案を作成すること、対象はナノテクと可能なら小規模なもの 1 件を取上げたいこと、そのために費用は積立金 300 万円の中から出してよいと了承が得られていることが説明された。

さらに、川島主査から、活動報告書は資産として残るように体裁を整え連番を付してゆくようにすべきであるとの発言があり、事務局で実現を図ることになった。

2. 日本工学会 CPD 講演会について

10 月 5 日の CPD 講演会のプログラムが紹介され、川島主査から委員に対して出席して意見を出してほしいとの依頼がなされた。また、建設系をはじめ各学協会に本講演会の受講を CPD ポイントの対象とするよう依頼することになった。

3. ナノテク ECE プログラムの検討状況報告

持田委員から、ナノテク ECE プログラムの実現について、産業界のキーパーソンや経済産業省と話し合ってきた経緯が説明された。これからどのようにしてゆくかについて審議が行われ、次の点が申し合わされた。

- 1) ナノテクに関しては、応用物理学会から委員を推薦してもらい、3～4 名の委員によってナノテク ECE プログラム開発・実施分科会を立ち上げ、1～2 枚の企画書を作っておき、経産省などの外部の動きにいつでも対応できるようにしておく。この企画書は経産省の専門家にみてもらい、その後中村取締役（日立）、桑原協議会長およ

び岸会長に報告する。

2) ECE プログラムプログラム委員会を将来どこに設けるかを CPD 協議会の中で議論する必要がある。

3) その他の小規模なプログラムの候補を次回に 5~6 件決める。

4) 資料 ECE08-16-5 は本委員会内部だけにとどめる。

審議の中で次のような意見が出た。

* ECE プログラムを、例えばつくばナノテク拠点などの外部の計画に組み込んでもらうにしても、日本工学会としての付加価値をどこに置くかを考えておかないといけない。(持田)

* これまで話し合った方々からは暖かく対応いただいている。経産省および岸会長が鍵であるが、こうしたところで検討をいただくために資料を準備しておく必要がある。(川島)

* 産業界の技術者育成を目指すというのは工学会から出した新しい考えである。つくばのプログラムはよい計画が立てられているので、講師やプログラムでここと競争するのは難しい。(持田)

* ナノテクという巨大な土俵の中で当会が少しでも貢献できるとよい。先方から工学会を利用したいというなら歓迎である。つくばナノテク拠点の協力団体に加えてもらえるとよい。政府がどう動くかが問題である。当会としてはいつでも対応できるように、中村コーディネータ(ナノテク ECE プログラム開発・実施分科会)のもとで計画書(配布資料第 26 ページに記載された内容)を作っておくのがよい。(川島)

* ECE プログラムはつくばナノテク拠点の教育にリンクさせようとしているのか?(中崎) ⇒その通りである。企業の技術者の育成というのが新しい点であり、これをフレームに加えてもらってはどうかと思う。(川島)

* 工学会が産業界の橋渡しを行うということか。(岡田)

* 桑原協議会長が当初示したイメージより範囲が広がってきている感じがする。(中崎) ⇒ ナノテクのように大きな ECE プログラムのほかに、当初、ECE プログラムとして考えた程度の規模なプログラムが考えられるとよい。(川島)

* 環境は大切なテーマである。これをもう少し絞ったものを取上げてはどうか。(中崎)

* 他の動きに乗っかるという「やどかり戦略」は工学会としては適切なやり方である。計画を作っておいて待ちの姿勢をとるとよい。つくばの計画は基礎的なところを対象として世界の最先端を目指すであろうから、工学会は応用面に焦点を合せるのもよい。こうしたアイデアを用意しておいて、機会が来たら参画して行くのがよい。(田口)

* 経産省の計画はターゲットがはっきりしない点があり、具体的な点をはっきりさせておいた方がよい。(小松)

* まずは動いてみないといけない。平成 19 年度、20 年度には ECE プログラムとしての概念の検討を行ってきたが、平成 21 年度からはこれを展開することからもう一度考えるべきである。次回はどのような弾があるかを各メンバーが考えて持ち寄ってほしい。(川島)

次回はメンバーの追加、交代を行った新しい構成で 11 月に開催し、日時は別途調整のうえ決定する。